

またひとつトンネル越ゆる紅葉狩

無駄な言葉も無く、情景が手に取るように分かる句。自然な詠いぶりが快く響きます。

冬ざれや辻に傾く道祖神

言われてみると、道祖神の真直ぐのものは少ないかもしれません。冬ざれの田舎の風景が伝わってきます。

電飾の綺羅に寒さを忘るほど

現代の風物詩でしょうか。高崎市にも、榛名湖にもそういった電飾のイベントがあると聞きます。新しい冬の光景ですね。

蠟梅の褒められる度貫はれて

いかにも蠟梅らしいと思えました。また、蠟梅を差し上げる方の人柄まで想像できて、ほのぼのとした気分させられます。

もう誰か割って仕舞ひし初氷

その年初めての氷。作者がそれを割ろうとするかは別として、目にしたとき残念ながらにもう誰かに割れていたと。初氷だから面白い。

見えぬものみつめる闇に除夜の鐘

作者の立っている位置がおよそ想像でき、大晦日の夜の闇を感慨深く味わっている作者が想像できます。

ビルの間の空遥かなる神迎へ
ビルの間の空……だから面白いといえるでしょう。森の空では当たり前前。近代の景色を持つてきた新しさですね。

以上

メール句会

十二月分互選結果

互選結果

小町選

霜柱大地の皮を剥がしけり

霜柱で盛り上がった大地の痛々しき。強烈に表れています。

普通選

尖る風避けやうのなき冬野かな
手袋に別の自分を仕舞い込む

末摘花

愛
みさほ

特選

百歳に神の落葉を掃く仕事
神殿を清掃する使命感にお年ともに感心致しました。

空蟬

普通選

マイク持ちやつと歌えた年忘れ
浮寝鴨力ぬきつつ玉となる

東原選

美伊
小町

特選

眉の月師走の空を和ませて
女の眉のような細く美しい月が心を和ませてくれる師走の夜の情景が目につかんでいきます。

岳

「眉の月」が句を引き立たせています。

普通選

マイク持ちやつと歌えた年忘れ
初氷元気はつらつ日を返す

岳選

美伊
公徳

特選

霜柱大地の皮を剥がしけり

公徳

霜柱の力強さが一気に伝わって来ます。

普通選

身を軽くして休息の枯木立
浮寝鴨力抜きつつ玉となる

空蟬
小町

特選

法則の無き氷紋や初氷
初氷の成り立ちの表現には感服致しました。

愛

普通選

語ること何もなくも息白し
身を軽くして休息の枯木立

みさほ
空蟬

特選

鳩もぐりもぐり大利根渉るなり
大利根の力強い流れを小さな鳩が潜りながらわたつてゆく様子がよくあらわれております。

末摘花

普通選

斑雪踏みつ散歩や鴉なく
灌木の後に眠る山静か

誠哉
かきむすめ

特選

浮寝鴨力抜きつつ玉となる
川池に囲まれた地に住まいしていますので、よくこんな景に心なませています。中7から下5お見事です。

小町

普通選

法則の無き氷紋や初氷
包丁研ぐことより始む年用意

愛
東原

特選

切り貼りの障子に過ぎる母の影
儉しく生きた優しいお母さんの面影、又其の時代背景が懐かしく偲ばれます。

かきむすめ

普通選

尖る風避けやうのなき冬野かな
寒禽のジャンプに細枝優しかな

愛
小町

特選

巢立ち跡くつきり見せて冬木立
冬木立の中に残された古巢に、未来へ羽ばた

岳

